

アクティブ・ラーニングの指導における教育的効果と地域課題解決の実現について

商業科 齊藤 武

1 はじめに

2022年度から高校で導入される新学習指導要領の改訂に向けた諮問（2014年11月）で課題の発見の解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）の必要性が記載されており、高等学校や大学でアクティブ・ラーニング型の授業が加速度的に導入されている。それにより生徒の学習環境が変化し、生徒の学びに対するニーズに対応して指導法を変化させる必要がある。生徒自ら課題を設定し、クラスメイトと協働しながら解決を図っていく授業の展開や指導法の教育的効果を研究し、指導力向上を図りたいと考える。アクティブ・ラーニングの授業展開を商業の視点から、地域の課題解決に繋げていきたい。

2 研究方法

これまで商業科目では資格取得を中心とした授業展開がなされていた。特に、「簿記」や「情報処理」などは基本的な知識が必要な科目であり、1学期からアクティブ・ラーニング型授業を展開することは厳しい現状であると感じる。また、教師側もアクティブ・ラーニング型授業に慣れていない。対話を中心とし、生徒の活動を把握しやすい少人数学習形態を取っている科目において、アクティブ・ラーニング型の授業展開が可能ではないかと考える。本校商業科は「商業に関する知識と技術をバランスよく学習し、ビジネス社会をリードする人材を養成する」という目標のもと、1年次に「ビジネス基礎」を学習することで、企業がどのようにして商品を作り、販売しているのかを学ぶ。2年次に学ぶ「マーケティング」での知識を活用し、3年次では「商品開発」の授業の中で、フィールドワークを実践していく。このように系統的に学ぶことによって深い学びの実現に繋がっている。

3 研究内容

「ビジネス基礎」学習指導案

1. 教科書 「ビジネス基礎」新訂版（実教出版）
2. 副教材 ビジネス基礎 新訂版 問題集（実教出版）
3. 履修単位 4単位
4. 単元名 第3章 ビジネスの担い手
 - 2 サービスの生産者
5. 単元の目標
 - (1) 現代の経済においてサービスの生産者の役割や仕事概要に関心を持ち、理解を深める。
 - (2) 経済の発展に伴う、ビジネスの変化について自ら考察する。
6. 単元等について
 - (1) 教材観

サービスの生産者の役割や仕事の概要及び各ビジネスの動向について基礎的・基本的な知識を習得させ、今後のビジネスがどのように変化していくかを主体的に考察し、表現することをねらいとする。

(2) 生徒観

全体的におとなしいが、授業態度は良好で資格取得等に向け、積極的に学習している。グループ学習も一人一人が主体的に取り組み、学びを深めている。

(3) 指導観

単元のねらいに応じた言語活動を取り入れ、評価規準の中でも思考力・判断力・表現力を育む実践を行っている。自分の考えをもつ、考えを広げる、考えを深めるという活動を取り入れた授業を心掛け、思考したことを伝え合い、学び合うことを通して、学習内容の定着を図る。

7. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・サービスの生産者の役割やビジネスについて関心を持ち、その活動や動向について探求しようとしている。	・サービスの生産者の活動や動向を様々な角度から考察するとともに、基礎的・基本的な知識と技術を基に適切に判断し、導き出した考えを表現している。	・サービスの生産者に関する最新の動向を調べ収集し、得られた情報もつ意味を読み取り、整理している。	・サービスの生産者について基礎的・基本的な知識を身につけ、その活動や動向について理解している。

8. 単元の指導計画（総時間数4時間）

- (1) サービスの生産者の役割・・・1時間
- (2) サービスの生産者の種類・・・1時間
- (3) サービスの生産者のビジネス・・・1時間
- (4) サービスの生産者の動向・・・1時間（本時1／1）

本時案

1. 主 題 サービスの生産者

2. 本時の目標

- (1) 観光旅行者をターゲットにした屋久島「観光プラン」を作成し発表させることにより、思考・表現力を身に付けさせる。
- (2) プランをグループごとに協議させ、生徒の言語活動の充実を図り、これから求められるサービスについて、能動的に理解を深めさせる。

3. 学習の展開

課程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入	5分	・挨拶及び出欠確認 ・前時の復習 ・本時の学習内容の確認	・「観光プラン」立案やプレゼン上の注意点を復習する。 ・作成した「観光プラン」を発表し、各グループで協議することを伝える。	・授業に臨む態度ができてきているか。 【関心・意欲・態度】 ・本時の内容に興味・関心を持ったか。

				【関心・意欲・態度】
展 開	35 分	<ul style="list-style-type: none"> ・発表前の確認をする。 ・プレゼン評価票の記入の説明を聞く。 ・発表 ・質疑応答 ・グループごとに発表し、プレゼン評価票を記入する。 ・投票 最も行きたいと思った観光プランに投票する。 ・開票 ・優秀グループの発表 ・プレゼン評価票について、グループで話し合う。 ・グループで話し合ったことを全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの発表内容を整理し、発表順の確認をする。 ・プレゼン評価票の記入について説明をする。 ・各グループ5分発表させる。 ・質問があったら、答えさせる。 ・しっかりとグループの発表を聞いているか留意し、発表後はプレゼン評価票の記入をしているか確認する。 ・最も行きたいと思った観光プランを発表したグループを記入し、投票させる。 (自分のグループも可) ・本日の優秀グループを集計・発表させ、優れた点についてコメントする。 ・プレゼン評価票を各グループへ渡し、改善する点等について話し合う。 ・グループで話し合った内容について全体に発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの状況を把握し、生徒の能動的な学習態度を評価する。【技能】 【関心・意欲・態度】 ・グループで意見をまとめ、きちんとみんなに伝えることができているか確認する。【技能】 【思考・判断・表現】 ・発表を聞いて、しっかりと評価しているか確認する。【技能】【知識・理解】 ・積極的に取り組んでいるか評価する。【関心・意欲・態度】
終 末	10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業で考えたことや感想を各自で振り返り、振り返りシートに記入する。 ・教科書P161からの「売買に関する計算の応用」で電卓検定1級の範囲を学習することを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容が理解できているか確認する。【知識・理解】

4 おわりに

アクティブ・ラーニング型授業を全ての科目で実施するには、まだまだ研究や研修が必要であると感じた。まずは、少人数の授業形態の科目やケーススタディを用いた授業展開ができる科目からアクティブ・ラーニング型授業を取り入れ、経験を重ねていくと良いと感じた。また、生徒への声掛けやグループ活動の時間を増やすことで、生徒は教師が思っている以上に能動的な学習に対応し、多くの意見を出すことができるようになった。今後も新たな指導法にチャレンジし、研鑽を積んでいきたい。